

5 その他の水質調査結果の概要

5.1 全窒素及び全リン

富栄養化の原因物質とされる全窒素、全リンは、河川 28 水域 32 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 5 水域 7 地点で測定した。測定結果は参考資料 5 に示す。

(1) 河川

河川において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、浅野川下流の鞍降橋で最大値は 7.9mg/L、平均値は 4.0mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点も浅野川下流の鞍降橋で最大値は 0.59mg/L、平均値は 0.24mg/L であった。

(2) 湖沼

湖沼において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、河北潟の大根布放水路前で最大値は 2.8mg/L、平均値は 1.1mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点も河北潟の大根布放水路前で最大値は 0.27mg/L、平均値は 0.11mg/L であった。

(3) 海域

海域において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は、金沢港（甲）の泊地出口で最大値は 3.1mg/L、平均値は 0.98mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は、七尾南湾（乙）の大田防波堤内で 0.18mg/L、平均値が最も高かった地点は、金沢港（甲）の泊地出口で 0.056mg/L であった。

5.2 特殊項目（銅、全亜鉛）

銅、全亜鉛は、梯川水系を中心に河川 13 水域 21 地点で測定した。測定結果は参考資料 6 に示す。

(1) 銅

銅の最大値及び平均値が最も高かった地点は、郷谷川の主谷川合流点上流で、最大値は 0.21mg/L、平均値は 0.14mg/L であった。

(2) 亜鉛

全亜鉛の最大値及び平均値が最も高かった地点は、郷谷川の主谷川合流点下流で、最大値は 0.37mg/L、平均値は 0.24mg/L であった。

5.3 その他の項目（陰イオン界面活性剤）

陰イオン界面活性剤は、河川 11 水域 11 地点、湖沼 1 水域 1 地点、海域 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 7 に示すとおり、生活排水が多く流入する御祓川下流の仙対橋で、最大値が 0.24 mg/L、平均値が 0.10 mg/L となり、他の地点より高い値を示した。

5.4 水生生物保全環境基準等に係る事前調査結果

水生生物保全環境基準に係る事前調査として全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩を測定した。測定結果は参考資料 8 に示す

(1) 全亜鉛

全亜鉛は、「2 特殊項目」として全亜鉛の測定を行った地点を除き、河川 44 水域 67 地点、湖沼 3 水域 7 地点、海域 11 水域 38 地点、計 112 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は、米町川下流の梨谷小山橋で、最大値は 0.054mg/L、平均値は 0.031mg/L であった。

(2) ノニルフェノール

ノニルフェノールは、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定したが、いずれの地点も報告下限値 (0.0006mg/L) 未満であった。

(3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定した。最大値及び平均値が最も高かった地点は、能登半島沿岸海域の能登町布浦沖の 0.012mg/L であった。

(4) 底層溶存酸素 (底層 DO)

底層溶存酸素は、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 32 地点、計 40 地点で測定した。最小値が最も低かった地点は、七尾南湾 (乙) の大田防波堤内で 6.3mg/L、平均値が最も低かった地点は、能登半島沿岸海域の能登町市之瀬沖及び能登町藤波沖の 9.1mg/L であった。

5.5 海水浴場

県内の主要 14 海水浴場 (年間延べ利用者数、概ね 1 万人以上) の水質は、遊泳期間前及び遊泳期間中にそれぞれ 2 日ずつ計 8 回 (1 日に午前、午後の 2 回) 測定を行った。

その結果は、表 6-1 及び表 6-2 に示すとおり、遊泳期間前に水浴場として良好な水質である「水質 AA」及び「水質 A」にランクされた水浴場は 12 (遊泳期間中: 8) 水浴場、遊泳可能な水質である「水質 B」及び「水質 C」は 2 (同: 6) 水浴場で、「不適」の水浴場はなかった。なお、水浴場の水質判定基準は、表 7 のとおりである。

表 6-1 海水浴場水質調査結果（遊泳期間前）

海水浴場名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
片野海水浴場	A	A	A	A	A
橋立海水浴場	A	A	B	B	B
小舞子海水浴場	AA	AA	A	AA	AA
徳光海水浴場	AA	AA	A	A	AA
内灘海水浴場	AA	B	B	B	AA
高松北部海水浴場	A	A	AA	B	A
今浜海水浴場	B	A	B	B	AA
千里浜海水浴場	B	A	B	A	A
大島海水浴場	B	B	AA	A	AA
増穂浦海水浴場	B	AA	B	B	AA
八ヶ崎海水浴場	B	AA	AA	AA	AA
袖ヶ浜海水浴場	AA	A	A	A	B
見付海水浴場	AA	A	AA	AA	AA
鉢ヶ崎海水浴場	A	AA	AA	AA	AA

表 6-2 海水浴場水質調査結果（遊泳期間中）

海水浴場名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
片野海水浴場	A	A	B	B	A
橋立海水浴場	A	A	B	B	B
小舞子海水浴場	AA	A	A	B	B
徳光海水浴場	AA	A	A	A	B
内灘海水浴場	AA	AA	B	B	AA
高松北部海水浴場	AA	A	A	A	AA
今浜海水浴場	B	B	B	B	B
千里浜海水浴場	B	B	B	B	A
大島海水浴場	B	AA	B	B	A
増穂浦海水浴場	B	A	B	B	AA
八ヶ崎海水浴場	B	A	B	AA	AA
袖ヶ浜海水浴場	AA	AA	AA	AA	B
見付海水浴場	AA	A	AA	A	B
鉢ヶ崎海水浴場	AA	A	AA	AA	A

表 7 水浴場の水質判定基準

区分	ふん便性大腸菌群数	油膜の有無	COD	透明度
適	水質 AA 不検出 (検出限界 2 個/100mL)	油膜が認められない	2 mg/L 以下 (湖沼は 3 mg/L 以下)	全透 (または 1 m 以上)
	水質 A 100 個/100mL 以下	油膜が認められない	2 mg/L 以下 (湖沼は 3 mg/L 以下)	全透 (または 1 m 以上)
可	水質 B 400 個/100mL 以下	常時は油膜が認められない	5 mg/L 以下	1 m 未満～ 50 cm 以上
	水質 C 1,000 個/100mL 以下	常時は油膜が認められない	8 mg/L 以下	1 m 未満～ 50 cm 以上
不適	1,000 個/100mL を 超えるもの	常時油膜が認められる	8 mg/L 超	50 cm 未満

(備考)

「不適」でない水浴場について、ふん便性大腸菌群数、油膜の有無、COD又は透明度によって「水質AA」、「水質A」、「水質B」あるいは「水質C」を判定し、「水質AA」及び「水質A」であるものを「適」、「水質B」及び「水質C」であるものを「可」とする。

- ・各項目のすべてが「水質AA」である水浴場を「水質AA」（水質が特に良好な水浴場）とする。
- ・各項目のすべてが「水質A」以上である水浴場を「水質A」（水質が良好な水浴場）とする。
- ・各項目のすべてが「水質B」以上である水浴場を「水質B」とする。
- ・これら以外のものを「水質C」とする。



図 15 海水浴場水質測定地点図